

「人」のライブハウス」カタリスト名簿

(五十音順)

1 鮫本あつこ

「離島から日本を考える」

島情報マガジン『離島経済新聞』『季刊 リトケイ』を編集しています。6852の島から成る日本は世界の中の小さな離島。「日本の縮図」とも言われる離島の魅力と課題から、日本という「島」を語ります。

2 石田通夫

「わたしの図書館 ミルキーウェイ 20000冊の蔵書を コミュニティでシェア?!」

思い出のある「本」や捨てられない「雑誌」や「チラシ」などの「紙クズ」をシェアして、多くの人と共有していきたいという思いではじめました。気が付いたら全国からの寄贈を含めて20000冊以上も集まりました。私設図書館の魅力を語ります!

3 磯井純充、 角田大地、久保恵子

「まち塾@まちライブラリー のすすめ」 ~やってみよう、見てみたい 私のまちライブラリー相談会~

全国各地にまち角毎の「まち塾@まちライブラリー」を誕生させる夢を見ています。カフェ、ギャラリー、BAR、薬局やお寺にも「まち塾@まちライブラリー」が広がっています。私のお気に入りの場所にも創りたいと思っておられる方と出会いたいです!

4 今村ナオミ、 井奈波康貴

「オーナーズカフェの 夢を語る!」

iriyapluscafé 100年Cafeを夢見て
×墨田の文化ハブ、東向島珈琲店

入谷の古民家を改装したカフェを100年続くカフェにしたい! 東向島のカフェをまち人が集う文化の拠点にしたい! 二人の夢をもとに皆さんもオーナーズカフェの夢を描きませんか?

5 秋月康、加藤雅明、 高橋耕太

「新宿でもない渋谷でもない 西小山商店街の魅力」

フリーペーパー「24580」(ニシコヤマ)を作り、地元発の文化を発信。地域の魅力を再発見する「ミステリーツアー」やまち人のたまり場「西小山ラウンジ」や「バルSLOW」で「まちライブラリー」も開始。新宿でもない渋谷でもない西小山の魅力を語り合いたいです!

6 加藤志異

「妖怪を語りあう」

少なくとも300年は生きたい!その為には、「妖怪」になるしかない! 妖怪の魅力に取りつかれ、妖怪になることを夢見る私と妖怪について語り合いました!

7 鐘ヶ江弘章、 本が好きメンバー

「本が好き! サイバー上の本空間と “人”との出会い」

本の魅力が、人との縁を深める。そんな本好きに本が講評をしあうサイトの鐘ヶ江です。サイバー上の本空間を越えてたまにはリアルに出会って本の魅力を語り合いませんか?

8 國枝加誉、 奥山学、奥山麻里

「食ゴトのすすめ!」

食事を「モノ」ではなく「コト」として捉え、食・健康・集いの大切さを考え行動する「食ゴトProject」。がんで闘病生活を続けている奥山学さんと奥様、麻里さんは食事を作る魅力、食べる喜びを感じる活動を開始。自身が糖尿病になったことから管理栄養士を目指した國枝もその活動をサポート。我々が実体験から見つけた食の重要性をお伝えします。一緒に食・健康について語り合いました!

9 佐々木繁範

「日本一長い名前のお菓子でさぬきのまちを元気にする!」

香川県さぬき市。香川県は讃岐うどんが有名だが、ここさぬき市は高松市の東に位置する人口5万人の過疎の町。うどんブームにも乗り遅れた感があり、これといった特色が打ち出せていなかったこの町を元気にするために日本一長い名前のお菓子をつくりました。さぬき市がいかに変わったか、土産菓子作りを通じた地域の再生物語を語り合いました!

10 柴山慎一、 岡田直子、小林利恵子

「広報人生。歩んだ、歩むぞ!」 本を書きチャイしました。

柴山は大手企業の広報を通して学んできたことを「本」にしてしまいました。岡田は、IT企業の広報から独立してPR会社を立ち上げる。小林は、岡田とシェアオフィスして教育研究に特化したSP活動を。広報の魅力とは?難しさとは?皆さんで語り合いませんか?

11 白水公康

「みんなで大好きな街を 盛り上げたい! 西荻茶散歩!」

お茶を飲みながらのんびりと西荻窪の街を散策するイベント「西荻茶散歩」。街のみんなが手づくりで作った新しい地域活性のカタチです。「街を繋ぐ」、「人を繋ぐ」ことを皆さんと考えましょう。

12 菅原和利

「奥多摩で起業する! 東京の里山を元気にする!!」

奥多摩は不思議な場所だ。ここでこそ自分の生きる道がある。そんな思いから奥多摩で起業しました。東京の里山を元気にする夢を皆さんと一緒に考えてください!

13 高橋健三

「目指せ集客日本一? コテコテ大阪人が語る 下町歩きの魅力」

大阪の代名詞といえば「お笑い、粉モン、タイガース」そんなイメージを払拭しほんまの魅力を伝えるために「OSAKA旅めがね」という大阪人による下町案内やっています。大阪人でも知らないディープな旅を企画してまんねん。鶴橋のコリアンタウンでキムチを作る、京橋の立飲み街を練り歩く、中之島でご来光を拝む。どれもこれもディープな大阪。その楽しみ方を教えませ!

14 竹林 一

「東京地図314区画を 歩き廻り、ついでに 東京から京都まで 東海道を歩いた体験記」

京都から一人単身赴任。東京人に「京都人には、東京は分かん」と言われて奮闘したのがはじまり。全部歩き廻って、銭湯も入りまわって最後は京都まで歩きました。歩いたら元気がでる。勇気がわく。前向きに生きられる!

15 橋ジュン、友成真一

「家出少女たちの声を聴く! 一人一人の幸せを見つめて」

渋谷のまちに家出少女たちの声を聴く橋さんがいる。彼女は、家出少女達の声を聴き、雑誌「VOICES」にしている。こころの支えになるばかりか新しい人生を掴む切っ掛けも提供している。まちの中の「見たくても、見ないもの」を大切にしている橋さんの夢とは?

16 手取屋岳夫

「健康のまち塾 @まちライブラリー」

心臓外科医の手取屋は、年間300例に亘る心臓手術をこなすかわら、もっと医療を身近なものにするための活動を開始した。医者、看護師、薬剤師、患者、健康者すべてにとっての仕切りのないコミュニケーションや情報交換こそが、一番大切だという視点の「健康のためのまち塾」を開始。全ての人にとって健康を保つための「まち塾@まちライブラリー」の夢をご一緒に考えませんか?

17 坪井賢一、
千野信浩

「経済紙記者が考える 未来の図書館」

経済雑誌「ダイヤモンド」の編集に長年携わってきた二人が記事のソースとしての図書館活用を披歴するとともに新しい図書館について皆さんと一緒に考えることにしたいと思います！

18 東條メリー、
赤羽大

「活版印刷の魅力に触れる！」

オフセット印刷の普及にともない少数派となった「活版印刷」の魅力と、その魅力を利用したデザインワークショップについてご紹介します。皆さんにも「活版印刷」の虜になってほしいです！

19 利根川英二

「イラストでまちおこし」 湯島・本郷マーチング委員会

誰もが普段見ているまちの風景。これをイラストにして「まちの魅力」を再発見してもらいながら「まちづくり」に繋げ行く。ユニークなまち再生を「マーチング委員会」としてやっています。イラストレーターで幼馴染との新たな出会いから始まりました。皆さんのまちでもぜひ！

20 友廣裕一、
地域で活動するカタリスト

「地域とつながる夢を語りあう」

人の縁だけを頼りに全国の農山漁村を廻ってきた経験をもとに、地域活性化のお手伝いしています。現在は、石巻エリアを中心に真の復興をサポート。地域とつながる・つながりたい参加者のみなさんの想いを共有し、応援し合える場にできればと思います！

21 仲田道弘、
風間正利

「白ワイン『甲州』 ロンドン進出への道！」

「甲州」は、日本唯一のワイン醸造専用品種甲州葡萄から造られた白ワイン。世界のひのき舞台ロンドンに「甲州」を輸出するまでの活動と「和食と甲州」の魅力について学びたいと思います。仲田さんは県職員というよりワインの伝道師。若い風間さんは、ブドウ農家のせがれとして日夜美味しいワインにむくブドウ作りの研究をしています

22 鍋島裕俊

「明治、大正、昭和の オリコミチラシからみた東京」

昔のオリコミ広告は、文化的で情報の宝庫だ！その魅力を私が集めた当時のオリコミチラシから読み解いてもらうと共にこれからのオリコミチラシの在り方を語り合いませんか？

23 濱田健司

「障害者と生きる！」

障害を持っている人と共に生きる。どうすれば障害者が社会で活躍できるのか？ 障害者と健常者が同じ目線で生きるには何が必要なのか？ 身近な活動事例を紹介するとともに皆さんにも障害者が明るく生きるための具体的活動計画を考えてもらいます！

24 八村大輔、
西尾安裕、高木利弘

「Apple の世界を語る」 AppleII～Mac～iPhone、 iPadまで

スティーブ・ジョブズ氏が亡くなられた。西尾は、元ラジオ局プロデューサーとして「MacEXPO」を日本に誘致。高木は、長らく「MacLife」編集長としてAppleをウオッチ。八村は、医療の世界での応用を模索。今、アップルの世界を語りながら新しいテクノロジーとデザインの融合が何をもたらしてきてこれからどうなるのか皆さんで考えませんか？

25 広石拓司

「場流地縁 ～活きた場づくりとは？」

社会で、地域で、職場で、人と人のつながりが薄れてきている。つながりを作ることが大切だと言われている。しかし、職場や地域社会の現場では、「いろいろ意見を言っても、意見募集は形式的なもの」と諦めている人もたくさんいる。「活きた場」とは、いったいどのようなものなのか。「場」づくりの極意とは、意味とは何かを語り合います。

26 星野概念 (JOYZ)

「音楽家と精神科医、 二つの顔を持つ星野の 語りと音楽」

JOYZの星野です。精神科の医者でもあります。音楽の魅力と精神科医として役割をどのように共存させられるのか？語りと音楽を楽しんでください！

27 本間貴裕、
渡辺由美

「バックパッカーの世界を語る！ あらゆる境界線を越えて 人が集う意味とは？」

本間は、入谷で築90年の古民家を改装してバックパッカーのゲストハウスtocoを経営。渡辺は、自ら苦勞して数々の国境を越え、その皮膚感覚で国際社会を理解することを実感。そこで出会ったアーティストも加えて皆さんとバックパッカーの世界から何が見えてきたのかを語りたい！

28 前田利恵子、
夏目承

「心理カウンセリングからみた 女と男の視点！ これを知れば男女の コミュニケーションが 理解できる!？」

家族を対象にした心理カウンセリングをやっています。色々なご相談が来ますが、女と男の視点の違いが誤解をうみコミュニケーションの障害になっています。立場による違いをどう乗り越えて心豊かな生きていけるか語りあいませんか？

29 松岡一久

「賑わい開発3.0」

私が20年以上携わってきた商業開発&街づくりに大きな転機が訪れています。従来型の集客ではなく、『イイ事つながり集ファンする』という考え方を軸に、各々で『居場所と出番』を楽しむ事の出来る新しい賑わいづくり、街づくりについて語り合いませんか？

30 松橋拓郎、
松浦紳也

「秋田県大潟村で 農業に生きる!」+ 「農作物で人をつなぐ」

松橋は、秋田県大潟村で農業をしています。農業の魅力を語り合うとともに私が農家として何をつくり、何をしたいのか聞いてもらえますか？松浦は福島県鮎川村の野菜を販売しつつ、都内各所でコミュニティベースのファーマーズマーケットを展開しています。農作物で人をつなぐゆめを聞いてください。

31 山口 翠

「地元・高知と東京の 二拠点生活から見えてきた、 ほんとうに豊かな暮らし」

海外での生活、東京での仕事に区切りをつけ、地元高知に拠点を設けて、東京と高知を行ったり来たりする生活をしています。故郷の魅力を再発見する方法をお伝えすると共に、これから地方で暮らすということとはどういうことなのか、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

32 脇本秀史

「東京抜けてみないかい！ 大阪からはじめる 多極化生活のすすめ」

身の丈で暮らすにはコストがかかる東京を離れて大阪に転勤。鶴橋そしてミナミで暮らしてみると狭い世界だけど、縛りの緩い生活が出来た。大阪の炭木でアジアの旅と味DejaVuを引き継ぐことに。好奇心が旺盛なお客さんが多いので間口広がった。豊かな感性とエネルギーをくれる土地にもっと関心を向けていく仕掛けを作りについて考えませんか！

33 JOYZ

サウンドセッション (@3F 広場)

JOYZがセレクトしたライブサウンドをお楽しみください！